

●地域経済レポート特集号／REGIONAL ECONOMIC REPORT

マルシェノルド

第44号



外国人との共生社会を考える

少子高齢化が進む一方で、経済のグローバル化が進展し、人・もの・お金の国際移動が活発化しています。人口減少によって労働力の担い手が不足していく中で、地域社会の活力を維持していくためには、外国人材を生かしていくことが重要になってきます。2019年4月には入管法が改正され、外国人労働者の受け入れが拡大されましたが、日本で生活する外国人は、言語や教育体制、就労環境など、課題は少なくありません。将来に向けて、地域政策としても外国人との共生のあり方を考えていく必要があります。

そこで、今回は外国人との共生社会づくりに向けて、その課題や政策として取り組むべき方向を探っていきます。

Contents

巻頭エッセイ

やさしい日本語	1
マルシェノルド編集主幹 小磯修二	

インタビュー

外国人との共生に向けた課題と方向	2
～欧州の経験から～	
北海道大学公共政策大学院院長 遠藤乾氏	

寄稿

道内における外国人労働者の現状と課題について	9
株式会社北海道二十一世紀総合研究所 主任研究員 菅原 淳	

地域事例1

町立日本語学校による共生まちづくりへの挑戦	16
～外国人とともに地域の活性化を目指す東川町～	

地域事例2

多文化共生社会づくりに向けた地道な実践	22
～浜松市の経験から学ぶ～	

お知らせ

深川・留萌自動車道2020年3月28日全線開通	29
民族共生象徴空間 ウポポイ	30
お知らせ	31

表紙の切り絵作家

三苦 麻由子 *Mayuko Mitoma*

東京都出身。武蔵野美術短大卒業後、広告代理店勤務などを経てフリーに。1994年札幌へ。みとまゆこのペンネームで、水彩、ペン、墨絵、切り絵など、さまざまなタッチでジャンルにこだわらず活躍中。本誌の表紙は、本号テーマ・イメージによるオリジナル作品。